



今年のゴールデンウィークは最大で8連休！ ご家族で楽しい時間を過ごされたことと思います。初夏を思わせるような暖かな日もあり、例年より早い桜の開花で、一足早い春の景色を楽しんだご家庭もあったのではないのでしょうか？！
連休明けは、疲れも出やすくなります。早寝早起きを心掛けて、園生活のリズムを少しずつ整えていきましょう。

♡♡♡末っ子達の園生活が本格スタート♡♡♡

末っ子「つぼみぐみ」の子ども達もいよいよ午後保育がスタートしました。園で過ごす時間が増えたことで、園庭遊びや近隣公園での遊びなど、活動の幅が大きく広がります。走る・跳ぶ・転がるだけでなく、登る、ぶら下がる、くぐる、引っ張る、押すなど、多様な動きを重ねることは、幼児期の「体の力」を育む大切な土台となります。さらに、年中・長兄の兄弟達と関わる時間が増えることも、白ゆりらしい育ちの一つです。「白ゆりっ子はみんな兄弟！」兄姉に憧れながら「遊び方」を覚え、兄姉達は、末っ子達と関わることで、優しさや思いやり、自立と自律を育みます。「育ち合い」の環境こそが、白ゆりが大切にしている子ども達の環境です。



🌱🌱🌱園外保育が育む子どもの力🌱🌱🌱

来週から園外保育が始まります。園外保育は、子ども達にとって“いつもの幼稚園”を飛び出し、世界を広げる大切な学びの機会です。自然豊かな公園では、季節ごとの自然の変化に触れることで、五感が豊かに刺激され、大型遊具での遊びでは、「体の力」の土台を育み、施設見学では、社会性やマナーを学ぶ機会にもなります。園舎内とは違う環境に身を置くことで、子ども達の「やってみたい！」「もっと知りたい！」がさらに大きく引き出されます。園外保育は、自然・身体・社会との出会いを通して、子どもの心と体、そして、学ぶ力を豊かに育てる、かけがえのない教育活動です。

□◆□Meet Our Instructor□◆□

The senior kindergarten class will be taught by **Hrushu**. He is from India and is in his third year in Japan. He majored in Environmental Science at Hokkaido University and brings energetic lessons that spark children's curiosity. The middle kindergarten class will be taught by **Anki**. She is also from India and is in her tenth year in Japan. She is the mother of two boys, aged eight and nine, and she truly loves working with children. The junior kindergarten class will be taught by **Del**. He is from Thailand and is in his third year in Japan. Since his university days, he has been involved in a variety of educational activities, through which he discovered the joy of working with and teaching children.

For more details, the instructors are introduced on **Ouchi-en**. Please take a look.

鹿児島研修で見つめ直した「幼児期の育ち」

先月、かえで先生、ちか先生、ひな先生の3名を各学年の代表として、7年ぶりに鹿児島県を訪れヨコミネ式の実践園3園で、園児達の課題活動に取り組む様子を見学してきました。実際に目の前で、体操・読み書き・音楽リズム等の課題活動に取り組む園児達の様子を見て、改めて感じたのは「継続すること」の力、子どもの「やりたい」を引き出す教師の関わり方の大切さです。ヨコミネ式では、子どもが将来、自立した大人になるために必要な力として「心の力」「学ぶ力」「体の力」の三つを大切にしています。「心の力」は諦めない心や思いやりを育てるもの、「学ぶ力」は自ら学ぶ力、「体の力」は運動能力の土台として位置付けられています。

見学した際に印象的だったのは、子ども達が“やらされている”ではなく、自分から取り組もうとする空気が園全体に流れていたことです。まさに、長い時間をかけて積み重ねられてきた「日々の継続」がありました。

毎日少しずつでも続ける。「できた」「できなかった」を繰り返しながらも、昨日の自分より半歩でも前に進む。その積み重ねが、子どもの「自信」を育て、「やればできるかもしれない！」という「やる気」に繋がっているのだと感じました。ヨコミネ式は、年齢に応じて毎日コツコツと積み重ねることが「学ぶ力」に繋がるとされていますが、まさにその意味を、子ども達の姿から実感しました。

もう一つ心に深く残ったのは、「教師の関わり方」です。子ども達にすぐに答えを与えるのではなく、考える時間を待ち、必要な時にだけ背中を押す… そうした関わりの中で、子ども達は「自分で考え、行動して、工夫して、確認する」という姿勢を身に付けていきます。これはまさに幼児期に身に付けたい「学ぶ力」の土台です。

自分で考える子、自分でやってみる子、自分で確かめる子は、小学校以降もしっかりと伸びていきますね。知識を先回りして教え込むことより、「学びに向かう姿勢」そのものを育てることの大切さを改めて教えられました。

「体の力」も、単に運動ができるようになることを目指すものではなく、走る・跳ぶ・転がる・ぶら下がる・支える・踏ん張るといった経験を重ねる中で、挑戦する心や諦めずにやり抜く気持ちが育ち、その過程の中で友達を応援したり、自分よりできる子の真似をしたり、悔しさを力に変えたりする経験が「心の力」の育みに繋がっています。教師達が子ども一人ひとりの「やる気」を引き出し、「ちょっと難しいこと」に挑戦させ、その子の取り組みを認めることで、子ども達は“可能性の芽”を自らの力で引き出していました。

今回の研修を通して改めて思ったのは、子どもの可能性は、大人が決めるものではないということ… 大切なのは、子どもを信じ、日々の小さな積み重ねを大事にすることです。

「できる！」「できない！」で急がずに、その子の「やってみたい！」に火を付けて、続ける力を支えること。その先に「心の力」「学ぶ力」「体の力」が確かに育っていくのだと、鹿児島の子も達が教えてくれました。横峯氏も、「子どもの可能性を信じ、親子が一緒になって学び育つことを願っている」とおっしゃっていました。

私達も、子ども一人ひとりが持つ可能性を信じ、その育ちを丁寧に支えていきたいと思えます。